

あうらのかたりべ

星川公民館長 石川一夫

『あうらのかたりべ』は、昭和五十二年に当公民館より刊行されました。

年数をかけて、星宮地方の歴史、民話、諺などの口承を調査記録し、一冊の本にまとめたものです。

それでは、さっそくその中の一部をご紹介します。

愛染堂縁起

下川上にある宝乗院愛染堂といえば、下川上の人々ばかりでなく、広くこの地方の民衆から尊敬されていますが、その愛染堂に祀られている愛染明王については、こんな話が伝わっています。

大同元年（806）九月一日のことだといえます。そのころ、下川上の近くの村々は大洪水に見舞われていました。幸い下川上を流れる川は、水かさこそ大いにまわっていましたが、あふれるまでにはいたっていませんでした。

こんな中、水を増した川の中を、どこからともなく一体の仏像が流れてくるのを村人が発見し、ただちに川岸に引き上げ、近くの空いている民家に安置して拝み始めたのです。

ちょうどそのころ京都から慧亮という僧が来ていて、その仏像を一目見るなり驚いてこう言いました。

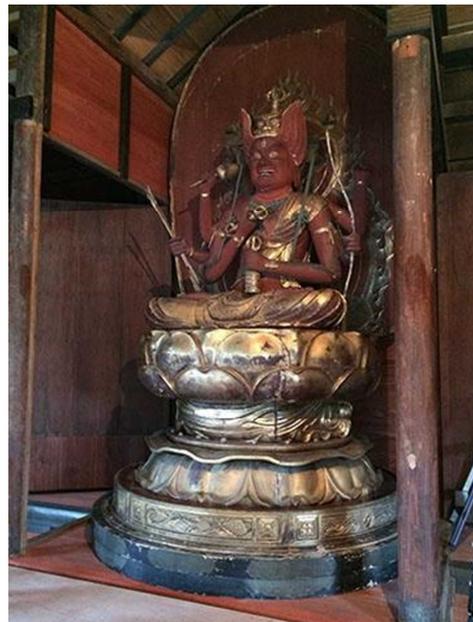
「日本一木（いちぼく）三体の尊像なり」と。

つまり一つの木から刻み出された三体の尊い仏像の一つがこれであったのです。（ちなみにあとの二体も現存し、そのどちらもが、下川上というところにあるのです。まことに不思議な話です。）

それを聞いた村人たちは、立派なお堂を建てて愛染明王を安置し、ますます信仰するようになったといえます。

そして、今でも市の指定文化財として大切に安置され、五十年に度のご開帳が行われます。

こうした口承を大きく変化する現代で、次の世代に語り継ぐ事の大切さをつくづく感じています。世代間交流、親子の集等を通じて、伝承していければと考えています。



（熊谷市公連だより 第3号 平成19年より）